

完了後の評価個表

整理番号	16-1
------	------

事業名	森林居住環境整備事業	都道府県	岐阜県
ふりがな 地域(地区)名	しらかわりゆういき 白川流域	事業実施主体	岐阜県、八百津町、白川町
関係市町村	八百津町、白川町、東白川村 中津川市(旧付知町、旧加子母村)	管理主体	八百津町、白川町、東白川村 中津川市(旧付知町、旧加子母村)
事業実施期間	H15 ~ H19(5年間)	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>①位置等 加茂郡八百津町、白川町、東白川村及び中津川市付知町、同市加子母の4市町村からなる当地区は岐阜県の東部に位置し、北は下呂市、東は長野県、南は恵那市、西は美濃加茂市に接している。 地形は、日本アルプスの最南端、御岳を主峰として連なる裏木曾山系に属し、海拔100m~2000mと高低差が激しく、地区内には木曾山川の一つである「木曾川」をはじめとした一級河川「付知川」「飛驒川」が貫流しており、佐見川、白川、黒川、赤川が飛驒川に合流している。</p> <p>②森林の状況 当地区の森林面積は50,070haであり、総面積56,801haの88.1%を占めている。森林面積の内訳は、国有林5,599ha(11.2%)、民有林44,471ha(88.8%)となっている。この地域は、東濃松の主産地であるため、人工林面積は26,830haで人工林率は60.3%と高くそのうち間伐等の森林整備が必要となる12齢級以下の森林は、22,557haと人工林の84.1%を占めており、公益的機能を高度に発揮させるための森林整備の実施が期待されている。</p> <p>③当地区を整備する目的・意義 当地区では、民有林内の人工林が26,830haあり、森林の蓄積は年々増加している。東濃松の産地として、木材関連施設団地を中心に木材の加工、流通を推進しているところであるが、過疎化、森林所有者・林業従事者の高齢化が進んでおり、保育、間伐など森林整備が思うように進まない状況であった。このような中で、この地域の豊富な森林資源を生産性の高いものにし、効率的な森林施業を進めていくためには、林道網の整備が不可欠であることから、森林基幹道加茂東線及び尾城山線の林道を整備した。 また、平成11年に「住宅の品質確保の促進等に関する法律」が制定されたことにより、基本構造部材に高い品質が求められるようになったことから木材乾燥施設が必要となった。そのためこの施設の用地整備を当該事業で実施した。 集落林道笹尾線、町道宇津尾無渡線は、集落間を結ぶ連絡道であり、通学や通勤などで多くの利用者があるが、一部の箇所が道路法面の崩壊により側溝が埋まって維持管理に苦慮していたことや舗装のひび割れがあるなど著しく通行の支障をきたしていたことから通行の安全を確保するとともに生活基盤としての機能向上を図るために整備した。</p> <p>(事業概要) 森林基幹道 ①加茂東線 車道幅員 4.0~5.0m 開設延長 31,600m 利用区域 2,182ha ②尾城山線 車道幅員 5.0m 開設延長 33,100m 利用区域 2,800ha</p> <p>林業施設用地整備 ③木材乾燥施設等用地 整備面積 4,270㎡</p> <p>集落基盤整備 ④笹尾線 車道幅員 4.0m 改良延長 375m ⑤宇津尾無渡線 車道幅員 3.6~4.0m 舗装延長 2,162m</p> <p>総事業費 1,386,901千円 (当初事業費 3,495,000千円)</p>
----------	---

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成25年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 事業内容の変更(他事業への移行)に伴い、事業採択時に比べ総事業費、総費用、総便益が減少した。</p> <table border="0"> <tr> <td>総便益 (B)</td> <td>2,116,465千円</td> <td>(事業採択時)</td> <td>3,761,729千円</td> </tr> <tr> <td>総費用 (C)</td> <td>1,921,693千円</td> <td>(事業採択時)</td> <td>2,454,500千円</td> </tr> <tr> <td>分析結果 (B/C)</td> <td>1.10</td> <td>(事業採択時)</td> <td>1.53</td> </tr> </table>	総便益 (B)	2,116,465千円	(事業採択時)	3,761,729千円	総費用 (C)	1,921,693千円	(事業採択時)	2,454,500千円	分析結果 (B/C)	1.10	(事業採択時)	1.53
総便益 (B)	2,116,465千円	(事業採択時)	3,761,729千円										
総費用 (C)	1,921,693千円	(事業採択時)	2,454,500千円										
分析結果 (B/C)	1.10	(事業採択時)	1.53										

② 事業効果の発現状況	<p>①林道整備により、施業地までの到達時間の短縮及び作業コストの低減が図られ、整備前5年間の間伐面積約5,757haに対し、整備後5年間で約6,605haに増加した。 ②白川町三川地区の木材関連施設団地内での木材乾燥施設用地整備により、木材の流通加工の一体整備の推進が図られた。 ③林道改良により、崩壊土砂や落石の除去など維持管理費の軽減と通行車両の安全性が図られた。 ④集落間の生活道路の再舗装により、通学や通勤など多数の利用者の生活基盤としての機能向上が図られた。</p>
-------------	---

<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<p>当事業により整備された林道は、各市町村が定めた林道管理規則に基づき適正に管理され、地域住民による沿線の草刈り、側溝清掃等も行われ良好に維持管理されている。 また、当事業により整備された木材乾燥施設用地は東濃ひのき製品流通協同組合により修繕・清掃作業等により良好に維持管理されている。</p>
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<p>林道整備により森林施業地までの到達時間の短縮等、林業従事者の労働条件の改善や作業コストの低減が図られ森林所有者の森林経営に対する意欲が向上している。 また、地元住民によるキノコや山菜等の採取、植樹ボランティアや森林教育の場としても林道が利用されている。 なお、林道整備による渓流水の流量減少、濁水などの影響は見受けられない。</p>
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>地球温暖化防止森林吸収源対策として、間伐施業を従来の1.6倍実施することが国策として推進されている。 林道整備により、労働強度の軽減や運搬車両の大型化、支線となる森林作業道の開設が促進されたことから、作業コストの低減による林業生産性が向上している。 また、森林整備が行われる一方、林道を通じて山菜採取やハイキング、植樹ボランティア等森林教育の場として地域住民等に利用されており森林に対する理解が深まりつつある。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>林道整備による、木材生産費の削減等により森林整備に対する森林所有者の意欲は徐々に増進されているものの、依然として木材価格の低迷等により未だ森林整備が十分とはいえない状況にある。 今後は、林道から支線となる森林作業道の整備や施業の集約化、林業機械の積極的な活用による林業生産性の向上を図り、安定的な木材生産、森林整備を推進していく必要がある。 また、事業により整備された施設については、引き続き適切な維持管理を行っていく必要がある。</p> <p>地元の意見： 林道整備によりこれまで手の行き届かなかった森林へのアクセスが可能となり、生産コスト及び労力の軽減が図られ林業活動が改善された。今後は、森林所有者への積極的な森林整備を働きかけていく。 (白川町、東白川村、中津川市) 林道等の改良及び舗装により、崩壊土砂の除去、路面の補修等の維持管理費の軽減が図られるとともに、利用者の安全確保及び基盤整備の機能が向上した。(白川町、八百津町) 木材乾燥施設用地を整備したことにより、木材乾燥施設を建設でき、良質な住宅を供給する体制が構築できた。(白川町)</p>
<p>評価結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 地域の豊かな森林資源を活用し山村地域の活性化を図るため、路網整備を活用した森林整備が効率的に進められている。 地域住民の重要な生活基盤である林道等の舗装、改良により安全な利用、維持管理の縮減が図られている。 木材乾燥施設用地整備より、品確法に対応する体制が構築できた。 以上のことから事業の必要性が認められる。 ・効率性： 林道等の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で実施しており、事業実施に当たってもコスト縮減に努め、総事業費の削減が図られたことから事業の効率性が認められる。 ・有効性： 林道整備により、森林へのアクセスが容易となり、森林整備を実施するコストも縮減されることから今後も事業効果の発現が見込まれること。 集落基盤整備により山村集落住民の生活環境が向上していること。 以上のことから事業の有効性が認められる。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林居住環境整備事業

都道府県名: 岐阜県

地域(地区)名: シラカワリョウキ
白川流域

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
木材生産等便益	木材生産等経費縮減便益	25,681	
	木材利用増進便益	44,150	
	木材生産確保・増進便益	97,126	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	16,865	
	治山経費縮減便益	1,075,054	
	森林管理等経費縮減便益	136,500	
	森林整備促進便益	375,381	
一般交通便益	走行時間短縮便益	10,641	
	走行経費縮減便益	565	
森林の総合利用便益	ふれあい機会創出便益	32,591	
災害等軽減便益	災害時迂回路等確保便益	136,960	
	災害復旧経費縮減便益	28,927	
維持管理費縮減便益		73,093	
山村環境整備便益	土地創出便益	62,931	
総 便 益 (B)		2,116,465	
総 費 用 (C)		1,921,693	
費用便益比	$B \div C = \frac{2,116,465}{1,921,693} = 1.10$		

白川流域(岐阜県)概要図



- 市町村界
- 地区区域
- 旧市町村界

白川流域地区

①	森林基幹道	加茂東線	開設
②	森林基幹道	尾城山線	開設
③	林業施設用地整	木材乾燥施設等	用地整備
④	集落基幹整備	笹尾線	改良
⑤	集落基幹整備	宇津尾無渡線	舗装

